



**令和 7 年度**  
**国際コミュニケーション**  
**コース修学旅行**

12 月 4 日～13 日

学校名：広島市立舟入高等学校

# 第 1 日目

待ちに待った修学旅行が始まりました。生徒はこれから始まるドイツ・デンマークへの期待を胸に広島駅に集合しました。まずはバスで広島空港まで移動しましたが、道中雪のつもった山を見て徐々に気持ちが高揚してきているようでした。そんな中、空港集合の生徒 3 名も集まりいざ飛行機に搭乗。生徒たちは「パスポートとスマホ」を呪文のように唱え 1 時間ほどで羽田空港へ。そこからいよいよ 14 時間のフライトの始まりです。飛行機の中ではお話をしたり映画を見たり、生徒は 19:00 の到着を見据えてなるべく寝ないように頑張っている様子でした。途中乱気流の影響でジェットコースターのように揺れながらも、ついにドイツに到着。とうとうヨーロッパの地に足を踏み入れました。この日はそのまますぐにホテルに向かいました。なんとここで、今年度教育実習で 2 年 8 組に来てくださっていた中村さんがサプライズ登場。こうして 1 日目の大移動が終了しました。



# 第 2 日目

この日は、朝早くからバスに乗ってドイツ北部のヒルデスハイムに向かいました。道中では風力発電や広大なジャガイモ畑などドイツらしい風景が広がっており、非常に綺麗でした。まずはレストランで南ドイツの名物料理である豚のスネ肉のローストとザワークラウトをいただきましたが、あまりの大きさに生徒は皆驚いた様子でした（非常に美味しそうに食べていました）。その後すぐヒルデスハイムの世界遺産「聖ミカエル教会」と「聖マリア大聖堂」を見学しました。ロマネスク様式であるこの教会は 11～12 世紀に建設され、何度かの修復を経て現代でもその荘厳さと神秘さを私たちに伝えてくれました。生徒たちも世界史の授業で聞いたような言葉が出てくるたびに、ワクワクしているようでした。そして、この日の最後には待ちに待ったホストファミリーとの合流がありました。まずは姉妹校であるウィルヘルムラーベ高校に夕方に到着し、すぐにウェルカムパーティーが開かれました。その場でファミリーと初対面した生徒たちは、不安もある様子でしたがすぐに打ち解け、この日はそのままファミリーと帰宅することとなりました。



## 第3日目

3日目のこの日、まずはハノーファー市庁舎に向かいました。広島市とハノーファーは姉妹都市の関係にあるため、副市長に足を運んでいただきこの町の歴史や政治についてのお話をさせていただきました。その際生徒たちはファミリーの生徒と共に議場には入らせていただき、生徒・教員ともに非常に貴重な経験をさせていただきました。その後、午後からは生徒はホストファミリーと共に街へ出掛けて行きました。



## 第5日目

4日目はすべてホストファミリーと過ごし、次の5日目は、朝から生徒ヴィルヘルムラーベ高校へ登校しホストファミリーと同じ授業を受けました。ドイツ語の授業がほとんどの様で生徒にとっては難しかった様でした。その後お昼過ぎに両校の交流会として舟入高校の生徒からの発表がありました。広島市や舟入高校での生活、そして平和についてなど様々な発表を生徒が行いましたが、その中でも特に「原爆の実体験」について語った1人の生徒の話が非常に印象深かった様子でした。ヴィルヘルムラーベ高校の生徒の表情が引き締まり、やはり広島市とハノーファーには“平和”という強い繋がりがあるのだと再認識しました。



## 第 6 日目

長いようで短かったホームステイもこの日で最終日となりました。最後の交流会でお互いにブレスレットを作り、その楽しそうな様子は本当の家族のように見えました。別れの時はいつまでも手を振り涙を流す生徒もいました。この経験は生徒たちの人生の中でとても大きく意味のあるものになったと確信しています。ただこの日はドイツからデンマークへの移動日だったため、別れの悲しみそのままにバスとフェリーでの移動が始まりました。その道中では、歴史的な街並みとモダン建築が融合した街として世界的に有名なハンブルクのハーフェンシティに立ち寄り、建築とその歴史について学ぶことができました。そしていよいよバスごとフェリーに乗り込み、2カ国目のデンマークへと出発しました。約1時間ほどの移動でしたが、瀬戸内海と同じように内海だったため大きな波もなく、とても快適な船旅でした。そしてそのままホテルへ向かいこの旅行で初めての3コースディナーをいただくことができました。生徒もコース料理には戸惑っている様子でしたが、本当に美味しくいただくことができました。



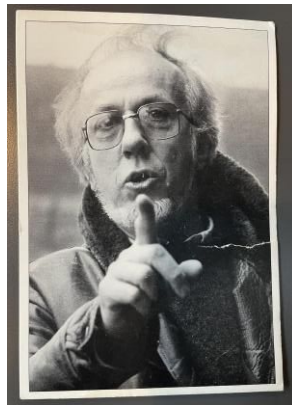
## 第 7 日目

旅にも慣れてきた7日目には、2つ目の交流校である Ørestad Gymnasium に向かいました。この学校は近年建てられた新しい学校で、歴史の授業の一環として訪問させていただくことができました。この学校で特徴的なのが、学ぶ意欲の高さと北欧らしい建築物でした。生徒のほとんどは日本でいうところの“大学“に進学することを考えている生徒で、授業を受ける姿勢などは日本人も学ぶ必要があると感じるほどでした。また建築の面でも、学校の中央に螺旋階段を設置し、各教室はガラス張りで授業の様子が見える様になっていました。これらのデザインは北欧の「様式よりも機能を」という考え方を表したもので、暮らす中での目的に即した建築様式となっていました。その後広島市でも有名なアンデルセンでパンやジュースを頂き、その足でデンマークで有名な人魚姫の像、衛兵交代などを見学しました。



## 第 8 日目

デンマークでの 2 日目は、Crossing Borders という団体とのワークショップを行いました。ここでは主に「移民・難民」についての学習を行い、街を巡りながらイスラム教徒や東欧からの移民についての授業を聞かせていただいたり、教室の中で様々な国からの移民や難民の方々のお話を聞かせていただいたりすることができ貴重な体験となりました。



## 第 9 日目

この日からとうとう広島への帰省となります。生徒たちは寂しい気持ちを抱きながら早朝にホテルを後にしました。コペンハーゲン空港からミュンヘン空港、そして羽田空港へと飛行機を乗り継ぎ、この日の 17 時頃に広島駅に到着しました。



終わりに・・・

生徒の皆さん本当にお疲れ様でした。今回の旅で様々なことを肌で感じる事ができたと思います。自分の中で心が動かされた出来事はなんだったのでしょうか。それはこの先自分の人生の大きなターニングポイントになっているかもしれません。今回感じたことをそれだけで終わらせてしまうのではなく、これからの自分の行動へと変えて行きましょう。